

□ 書評 □

網本 和(編)

標準理学療法学 物理療法学

佐々木 誠

(仙台医療技術専門学校理学療学科)

本書の編者である網本和氏は、理学療法におけるシャープな臨床観察と研究成果の整合性ある解釈を、平易な言葉で伝達する実践家である。執筆陣は物理療法学分野において第一線に立って検証のための研鑽を継続されており、充実した内容の書に仕上がっている。

時代とともに変遷する中で

まさに現在の“標準”の書

物理療法は紀元前より活用されており、現在に至るまでには様々な領域の科学の発展に支えられ、歩みを共にしてきた。本書は、その変遷を詳細に解説したうえで、現在の主流に重きを置いている。そうでありながら、理学療法教育を受ける学生が最低限理解すべき内容を網羅し、物理療法を施行する際の効果や禁忌、その生理学的背景にとどまらず、患者評価の方法にも言及している。さらに、各執筆者の実証的姿勢に基づいて、物理療法の各種別ごとの知見がふんだんに紹介されており、その効果と現時点における限界、展望が

記されている。

科学的根拠を構築することが要望される理学療法学にあつては、物理療法の各方法が時代の流れとともに盛衰の途をたどるのは必然であり、そのような意味で本書はまさに“標準”であると言えよう。

理学療法学生・教育者の

統合された物理療法展開のための羅針盤

物理療法関連の書物は数多くあるが、いずれにおいても「これ一冊で」というわけにはいかない。物理療法機器の原理や生理学的作用から臨床での応用的実践までを指し示す必要がある理学療法教育者は、複数の書物を基に学内外での実習を展開する。本書の特徴として、物理療法単独での施行に加えて運動療法の併用の重要性が随所に示されている。また、症例別に単一の物理療法やその組み合わせ、運動療法との併用の実際を紹介した章がある。この試みは編者が序に示したように、「統合をはかろうとするもの」であり、学生の臨床イメージを喚起する画期的なものではあるが、独力で一連の理学療法を実施するには至らない。この点、学生に対する教育者の援助が不可欠であり、教育者が学生とともに統合された物理療法展開を創意工夫するための指南役の書として最適である。

●B5 頁264 2001 定価(本体4,700円+税) 送料実費 医学書院・刊